

新任のご挨拶と、リウマチ膠原病科の診療ご案内

(当科顧問) 三森 明夫



新任ご挨拶とともにリウマチ膠原病科から診療内容をご紹介申し上げます。

東京山手メディカルセンターは、新宿・新大久保を中心に都内の総合的な専門診療を担っております。当院のリウマチ膠原病診療は昨年まで外来のみでしたが、本年4月に入院病床が設置され、どんな病状にも対応できることになりました。5人のスタッフが診療方針を統一し、病棟発足の当初から入院依頼や外来紹介をすべて引き受け、地域の拠点と自負しています。

外来は月～金の毎日ですが、午後だけの日もあります。

- ・電話予約(代表番号→内科外来へ)は簡単で、待ち日数は殆どありません。
- ・ネット検索なら「東京山手メディカルセンター(ホームページ)→診療科のご案内→リウマチ膠原病科→紹介文中の外来日程」をご覧下さい。
- ・予約なしで初めて来院されるなら、火・木の午前(リウマチ外来が内科一般の初診外来を兼ねる曜日)にお願いいたします。

<リウマチ膠原病とは>

外傷でなく筋骨格の痛む病気をリウマチ性疾患と呼びます。治療法は整形外科と内科に分かれ、医師が診て適宜選別するので、迷う場合の相談窓口はどちらでもよいです。内科のリウマチ性疾患であれば、体全体を巡る原因物質があると古代人が想像しましたが、近代では痛風(尿酸過多)、

変形性関節症(加齢変化)、関節リウマチ(免疫作用)、感染症に分けられ、20世紀に膠原病が追加されて免疫病の専門分野になりました。今では、内科のリウマチ性疾患とリウマチ膠原病は同義語です。

痛みと発熱は概ね、免疫反応(白血球の働き)です。膠原病は一つの内臓(心臓、消化器、肺、子宮卵巣)の病気でなく、色々に症状が動くので何科の病気なのか分かりにくいものです。したがって私共リウマチ膠原病専門医は、熱の原因や、どの内臓の病気なのかを初期判断する役割も担っています。

<自己紹介>

私はリウマチ膠原病について、東大病院で診療と研究、自治医大、埼玉医大で診療と学生教育に従事し、その後は国立国際医療研究センターで膠原病科長として診療に専念して定年退職しました。今年4月から当院(東京山手メディカルセンター)リウマチ膠原病科の科長を務める金子医師は、国立国際医療センター時代の同僚であり、私共は診療について共通の認識をもっています。

<メッセージ>

リウマチ膠原病の治療成績は、この20年で非常によくなっています。